

といかん本音トーク Vol.2-3

3月8日、18日

第2回、第3回の懇談会を開催

第2回では北海道立総合研究機構の松村氏をお招きし講演「住民が立ち上がると地域はかわる」を開催。

第3回では同機構の石井氏による「令和2年度問寒別住民ヒアリング結果報告」を実施いたしました。

第2回は昼夜2回の開催で17名

第3回も2回の開催で13名のご参加をいただきました。

ありがとうございます

地域住民同士の支え合いを強めること
⇒みんなの幸福感が増すとのお話でした。

といかん本音トーク

暮らしを支える地域活動の担い手が地域・行政共に減少が続いています。

問寒別の昔と今の実情をお聞きし、今後地域を維持していくにはどうしたら良いかを定期的に話し合っています。

問寒別地区を維持し続けるうえで今後現在～数年内に考えらる状況についてご意見をいただきました。



今ある役割をサポートする 団体ができたらどうなるか？

地域活動維持に必要なことをサポートする団体ができたらお願いしたいこととは何かを考えました。(今後必要とされるものとは?)

- 地域行事・まつりの運営のサポート
- 少し(短期間)の労働力が欲しいときに働き手を紹介できるような人材派遣機能
- 公共施設の管理 (生涯学習センター 草刈り・除雪 プールの監視員)
- 新たに地域に入ってくる人と地元の人とをつなげる役割
- 今回のような地域住民の意見を聞く会の開催

集落を維持しつづけるとは



このような団体をつくる場合

団体運営のイメージがわからない

団体のメンバーや役職に就くのは誰なのか(地元住民?外から連れてくる?)

などを継続して話し合っていくことが
まだまだ必要だとの話となりました。

にぎわい ▶▶ まつりは地元の誇り

サークルや地域行事が多く住民同士のつながりが強い。一方で今後の担い手が少なく維持していくのが大変だろう。

仕事

産業のかなめでもある酪農は跡継ぎや施設の老朽化にともない離農する人が増えるだろう。新規就農の募集や海外からの労働者の受け入れで維持していく必要がある。

住宅

地元で新たに働く人が住める住居が不足している。最近では地域外からの通勤者が増えている。移住者の受け入れや離農などによる住み替えができる住居が必要になる



問寒別生涯学習センターの 面白い活用方法 大募集!!

☆2泊3日の草刈りキャンプ☆

☆ビール・焼肉パーティー☆

など今まで無かった利用方法を
考えようというご提案がありました。

幌延町企画政策課☆地域おこし協力隊